

解説

事業承継の問題を抱えている中小企業は多く、後継者不在が原因で廃業する企業は増加傾向にある。中小企業経営者の高齢化も進む中、政府はM&Aによる規模拡大は企業の成長に効果的で、実施企業は労働生産性が高いと活用を促す。

しかし、規模や生産性ばかりを追い求めた事業承継は期待した効果が得られず、結果的に規模も生産性も伸び悩むことがある。最大の要因は「ヒト」。そこで働く従業員の満足度やエンゲージメントが高まらなければ、設備の生産性は上がってもヒトの生産性は上がらない。

インスマタルと東洋鋼鉄が提携

従業員の未来と幸福を守る

新たな事業承継のモデルに

今回のインスマタルと東洋鋼鉄の提携で、東洋鋼鉄の村上京子社長が最も守りたかったのは「一番大事に思う従業員たちの未来と幸福」。その願いを叶えられる経営者として、「誰よりも従業員思いで、業界内でも信望が厚い(村上社長)」と敬意を表するインスマタルの福田 互に機能を補完し合う関係にある。特に近年はブラッキングの金型保管の手間を軽減するため、少量の加工品については顧客にレーザー加工への工法転換を提案し、自社のレーザー加工機で賄えない分についてはインスマタルに加工を委託するケースが増えている。

今後は同じグループとなることで、村上社長は「111が2以上になる」と期待を膨らませる。事業面でのシナジーとしては、東洋鋼鉄が得意とするブラッキングとインスマタルが主力とするレーザー加工が組み合わさることで、受注内容に応じて最適な加工方法を選択できるようになる。

ブラッキングは量産品メタルにとっては物流の工品も、同社のブラッキングラインでは製造可能な。量産対応や継続的にリピート注文が来る場合は金型を起してプレス化した方がコスト競争力や生産性は高まる。

東洋鋼鉄は鋼材輸送を手掛ける鋼鉄運輸をグループ会社に持ち、インスマタルにとっては物流のメタルにとっては物流の重ね、今回のグループという新たな形にたどり着いた。

村上社長は「この新しいパートナシップが当社だけでなく、業界全体の発展と革新に寄与する」と信じている」と語り、事業承継の新たなモデルケースとなることを願う。インスマタルの持続的成長を実現してきた福田 互の経営手腕にも期待がかけられ、新しい視点でコイルセンターをどうかじ取りするかが注目される。

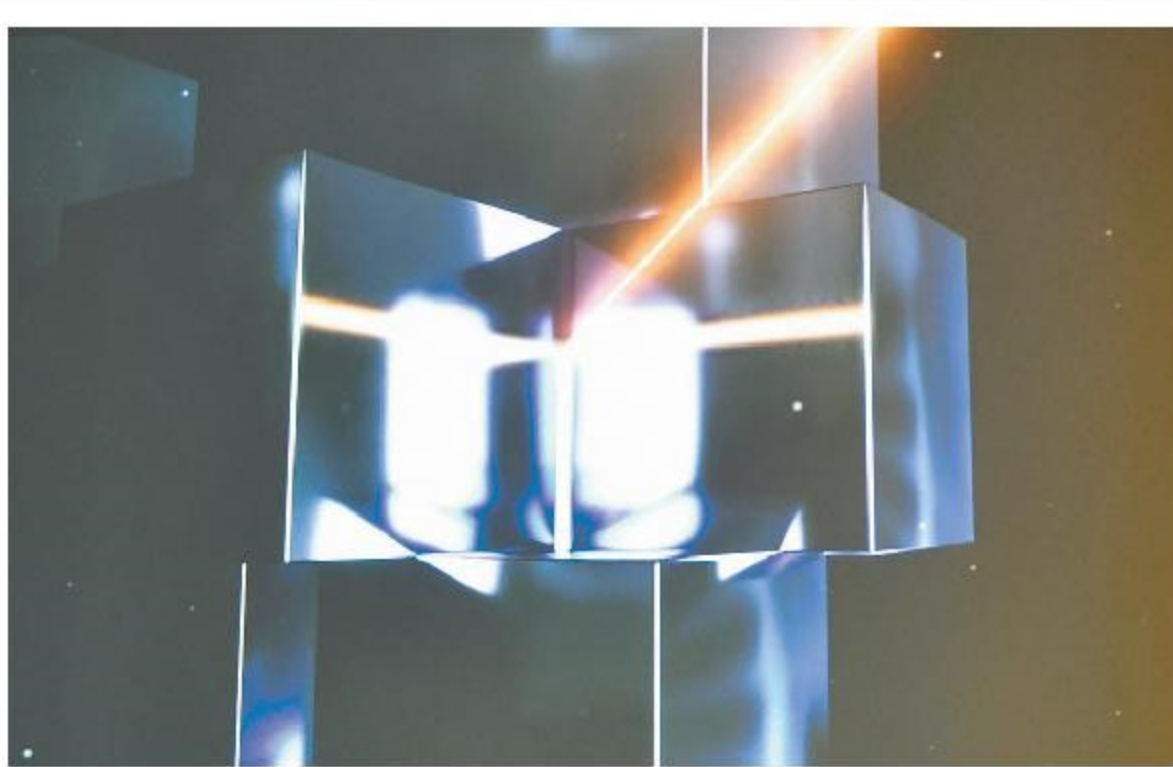
(音成 泰文)

インスマタルと東洋鋼鉄

新グループのHP開設

村上裕佑氏がPV制作

インスマタルと東洋鋼鉄は25日、「FUKU



未来の世界をレーザーなどで切り拓く(PVの1コマ)

I GROUP(フク

イグループ)のホーム

ページ(HP)を開設

する。グループの新たなスタートを記念し、

両社の加工技術をイメージしたプロモーションビデオ(PV)を制作。PVは東洋鋼鉄の

村上京子社長の長男

で、国内外で活躍する

映像アーティストの村

上裕佑さんが手掛けた。

ロンドン在住の裕佑

さんと村上社長、イン

スマタルの福田社長の

3人で、ウェブ会議シ

ステムを使ってアイデアを出し合い、PVを

完成させた。

未来の世界で両社が

手掛けるブラッキング

やレーザー、レベラー、

スリッターなどの加工

によって、金属が形を

変えていき、それらの加工品が街中で社会の役に立ち、人々の暮らしを支えているというコンセプトの映像に仕上がっている。PVはFUKUI GROUPのHPで視聴できる。